

2012年4月9日

## めんどりの集い（子どもを亡くした家族の「語り合い・分かち合い」の集い）

### 再開のお知らせ

関係者各位

日頃のご活躍に敬意を表します。

この度、子どもを亡くした家族のための「語り合い・分かち合い」を再開することにしましたので、お知らせします。

この分かち合いの始まりは1993年5月の母の日でした。私自身が前年の1992年2月7日に長男を喪ったことから、同じく小児がんで亡くなった子の家族を取材した本『風の中のめんどりたち』を出版した次第です。それまで、子どもの闘病を追った書籍は少しありましたが、多くが「亡くなったところで終わり」それからを描いたものは見かけなかったためか、反響がなかなか大きく、では集ってみましょう、ということになりました。

その日、70人超の母親が（少し父親もいて）巨大なサークル型で座りました。私は主催者として司会をしたのですが、「ぜひ全員が自分の子のことを語ってください」と促して、延々と参加者が物語りました。その日の終わりに参加者の1人が「今日も誰かの講演を聴くのかと思って来たら、自分で話せと言われてびっくりしました。でも想いを語るのは気持ちの良いものですね」と言っていたのが印象的でした。

最初から「親であること」以外に参加条件はつけず、病死に限らず、自死や交通事故、事件など死亡理由は様々、子の年齢も胎内死から40代後半まで多層でした。それから、参加者数は30人であったり12人であったり、そして会場を名古屋や大阪や福岡と増やしながら、最初の日と同じように「参加者が全員自分の子への思慕を語る」スタイルを変えずに続けて来ました。

以来、参加者の総数はおよそ11,000人です。私が全て司会をしましたので、私は11,000回の心情吐露に付き合ったこととなります。この経験からまずひとつ言えることは、私自身にとって「語り合い・分かち合い」は、「悲哀を生きる苦しみの時間をなんとかやり過ごす」ための手段でした。

もう1つは、わが家の経験からも、参加者全ての反応からも、ほぼ言いきってよいと感じているのは、子の死（きょうだいの死）によって開始した壮烈な悲しみがひとまず落ち着くまでに3年かかる、ということです。そして、「美味しい」とか、「本当に面白い話ね」「楽しかった」という言葉と、心の深層とにかい離が無くなるのが6年（7年目）あたりからです。これを裏付けることになるのが、集いの参加者の入れ替わりだと思われまます。6年周期ほどで参加者名簿がすっかり入れ替わってきました。参加者1人1人も、毎月の開催を真理きれない様子だったひとが、3年目くらいから「学校の保護者会の役員になった」「仕事に就くことに」などと外の世界へ歩み出し、欠席し始めます。ある人は6年目ころにはっきりと「集いの仲間に会わなくても、なんとか過ごせるようになりました」と穏やかに卒業宣言しました。

それにしても、なぜいま再開なのか、ということですが、やはり東日本大震災から1年が経過したことが下地です。ただ東北地方を対象に集いを企画しませんので、東北地方への共感をもって東京や名古屋で悲しみの分かち合いをしましょう、ということになります。

ほかの理由でお子さんをお亡くされた方々も、大震災にはとても心が乱れたと思います。私も、鎮まったと感じていた魂が非常に乱れた日々でした。それでもなお、あれほど多くの支援が東北に集合しているのだから「私までが東北支援に参加する必要も無いはず」と思って、集いを再開する必要を自身のこととして考えるほどではありませんでした。

それが、この寒過ぎる冬の日々、大震災から1年が経過する3月11日が近づくにつれて、その後を20年も過ごした私にできることは、やはり「あの子の後を追わず、その後をなんとか生き抜いた姿を示すこと」かもしれないと思い至りました。

別紙は集いへの参加を呼び掛ける通信です。

ご関係の対象で、子の喪失の悲しみを苦しんでいる方がおられましたら渡していただければ幸いです。

また、集いにはHPがありますので、お時間がありましたら覗いてみてください。

めんどりの集い <http://www5f.biglobe.ne.jp/~hiroba/mendori/index.htm>

今後とも宜しくお願い致します。

集い開催日 2012年4月25日（水）午後6時30分～8時

会場 東京・市ヶ谷 番町教会々議室（参加者には地図・会議室案内を送ります。問い合わせはNPO 法人血液情報広場・つばさ）

子どもを亡くした家族の「語り合い・分かち合い」の集い 代表 橋本明子  
NPO 法人血液情報広場・つばさ 理事長 03-3203-2570（12時～17時）